

★EUのPPWRから米国・中国・アジア・中南米まで世界各国の法規制や制度変革の動きを俯瞰する！

セミナーNo.610206

★「規制対応」から「資源循環」へ、リサイクルから使用の再生材使用の義務化の動き！

国内外のプラスチック・容器包装をめぐる

法規制・規格・リサイクルの最新動向と今後の展望

～PPWR・EPR・再生プラスチック利用の義務化・国際条約など～



- 日 時: 2026年10月19日(月) 11:00～16:30 【1日目】 ●聴講料: 1名につき 77,000円(消費税込み, 資料付)
2026年10月20日(火) 10:10～15:00 【2日目】 [1社2名以上同時申込の場合のみ1名につき71,500円(税込)]
●会 場: [Zoomを使用したLive配信セミナーです。] [大学, 公的機関, 医療機関の方には割引制度(アカデミック価格)があります。]
勤務先やご自宅のパソコンでご視聴ください。

1. 包装廃棄物に関する国内外法規制及び国際プラスチック条約審議の最新動向 [10月19日 11:00～12:30] 西 包装専事事務所 代表 西 秀樹 氏 1. 世界の廃棄プラスチック量と処理状況 (OECD報告書) 2. 国際的な資源リサイクル戦略 (国連, EU, 米国, 日本, 中国, ASEAN) 3. EUの包装・包装廃棄物規制 (PPWR) 適用開始 (2026.08) 4. 日本の資源有効利用促進法改正施行 (2026.04) 5. 米国の連邦法案, 州による規制動向 (EPR等) 6. 国際プラスチック条約の審議状況 (国連環境総会) 【質疑応答】	5. プラスチックマテリアルリサイクル高度化に向けた光センシング技術での貢献 [10月20日 10:10～11:00] 浜松トニクス(株) 瀧美 利久 氏 1. 分析機器・光装置メーカーの視点からのプラスチック規制やプラスチックリサイクルへの見解 2. 光センシング技術での当該テーマへの取り組みとその事例 3. 今後の展望 【質疑応答】
2. プラスチックリサイクルの未来を創る「資源プラ」という処方箋 [13:20～14:20] 本堀技術士事務所 代表 技術士 本堀 雷太 氏 [一社資源プラ協会 技術理事] 1. 安定で持続的なプラスチックリサイクル事業の成立要件 2. 品質を拠り所とする「資源プラ」 3. 資源プラの品質を「創る」ために 4. 資源プラビジネスの成功例 [J-EPS Recycling] 【質疑応答】 4.1 我が国発祥の発泡スチロール(EPS)のマテリアルリサイクル 4.2 なぜ, J-EPS Recyclingは成功したか? 4.3 「資源プラ製造」と「資源プラ輸出」の連携の意義 5. 広がる資源プラの可能性 【質疑応答】	6. 国内のプラスチック・容器包装材料をめぐるリサイクルと法規制の最新動向 [11:10～12:00] 九州大学 洋上風力研究教育センター 教授 博士(エネルギー科学) 早淵 百合子 氏 1. プラスチック・容器包装をめぐる背景と循環型社会 1.1 プラスチック問題の現状(海洋プラスチック・脱炭素・資源制約) 1.2 3R・サーキュラーエコノミーと循環型社会形成推進基本法 1.3 日本の資源循環関連法の全体像 2. 容器包装リサイクル法とプラスチック資源循環促進法 3. 改正資源有効利用促進法と最新の法規制動向 4. リサイクルの課題・国際動向と今後の展望 【質疑応答】
3. 欧州を中心とするプラスチック資源循環に向けた政策動向 [14:30～15:20] 東北大学 大学院環境科学研究科 教授 博士(学術) 齋藤 優子 氏 1. イントロダクション 1.1 プラスチックの生産と廃棄の現状 1.2 プラスチックを取り巻く課題 1.3 プラスチック条約交渉 2. EUの循環経済政策 2.1 EUの循環経済政策の流れ 2.2 プラスチック資源循環に関する政策 2.3 リサイクル材含有義務 2.4 エコデザイン規則, 循環経済法, その他の主要な政策動向 3. 各国のプラスチック政策と我が国の現状 3.1 我が国のプラスチック政策とEUとの比較 3.2 プラスチック資源循環に向けた現状と課題 【質疑応答】	7. 米国におけるプラスチック対策や規制の動き [13:00～13:50] みずほ総合研究所 サステナビリティコンサルティング部 鍋谷 佳希 氏 1. カリフォルニア州におけるEPR法 2. Microbead-Free Waters Act of 2015 3. 飲料水中のマイクロプラスチック監視 【質疑応答】
4. 中国におけるプラスチックや容器包装材料に関する規格規制やリサイクルの動きについて [15:30～16:30] (株)NTTデータ経営研究所 社会・環境戦略コンサルティング本部 シニアコンサルタント 学術博士 王 長君 氏 1. 中国のプラスチック政策の全体像 1.1 中国の基本方針 1.2 管理体制 2. 主な規制 2.1 プラスチック汚染対策「プラスチック汚染対策の更なる強化に関する意見」 3. 容器包装規制 3.1 GB 4806シリーズ 3.2 GB 9685 3.3 GB 23350 4. リサイクル制度(資源循環法) 5. 今後の方向性 5.1 再生材使用率の義務化 5.2 EPR(拡大生産者責任) 5.3 デジタル化 5.4 カーボンフットプリント 6. 日本企業への影響 【質疑応答】	8. インド, ASEAN, 中南米地域の新興経済国のEPR制度の動向 [14:00～15:00] (一社)東京環境経営研究所 理事長 松浦 徹也 氏 1. インド, ASEAN, 中南米地域などの新興経済国の概況 2. EPR制度の潮流 2.1 OECDのガイドラインの影響 2.2 国連プラスチック条約の影響 3. 新興経済国のEPR制度 3.1 インドのEPR制度 3.2 ASEANのEPR制度 3.3 メキシコのEPR制度 3.4 ブラジルのEPR制度 3.5 チリのEPR制度 3.6 コロンビアのEPR制度 3.7 ベルールのEPR制度 4. EPR制度の新たな論点 4.1 マス・バランスとグリーンウォッシュ 4.2 デジタル製品パスポートとEPR制度 【質疑応答】

セミナー申込書

「国内外プラ規制」セミナー

No.610206

10/19・20

- ・申込書に必要な事項をご記入の上, FAX (03-5436-7745) にてお申込みください。
- ・ホームページからも申込できます。 <https://www.gijutu.co.jp/>

会社名	事業所・事業部		
住所	〒		
TEL	携帯電話		
	所属部課	氏名(フリガナ)	E-mail
受講者1			
受講者2			
今後ご希望しない案内方法に×印をしてください(現在案内が届いている方も再度ご指示ください) [郵送(宅配便)・ショートメッセージ(SMS, 携帯電話)・e-mail]			
個人情報の利用目的 ・セミナーの受付, 事務処理, アフターサービスのため ・今後の新商品, 新サービスに関するご案内のため ・セミナー開催, 運営のため講師へもお知らせいたします			



TECHNICAL INFORMATION INSTITUTE CO.,LTD.

申込専用FAX 03-5436-7745

●申込方法

1. 申込書が届き次第, 請求書・聴講券・会場案内図をお送りいたします。
2. お申し込み後はキャンセルできません。
受講料は返金いたしませんので, ご都合の悪い場合は代理の方がご出席ください。

3. 申込み人数が開催人数に満たない場合等, 状況により中止させて頂く場合がございます。
4. 定員になり次第, 申込みは締切となります。